

皆様、こんにちは。

カトリック府中教会、アンドレアです。

「わたしより父や母を愛する人は、わたしにふさわしくない」

イエスの言葉には、ときどき、私たちの常識ではついていけない厳しさが現れます。この言葉もその一つです。本日の福音には、「わたしにふさわしくない」という表現が三度も繰り返されます。父と母への愛、子どもたちへの愛よりも自分に対する愛を要求し、その要求に応えるのでなければ、その人を自分の弟子として受け入れることはできないという、考えてみますと非常に恐ろしい言葉です。

親子のつながり、夫婦のつながりは、私たち人間にとってはもっとも基本的なものですし、そのつながりの中で互いに支えあい助けあい、喜びや悲しみを共にしながら、愛することを学び、献身への道を学んでいるのです。それをイエスは いけないというのでしょうか。それを否定しようとするのでしょうか。

イエスの主旨が、神への道と人間同士のつながりを分裂させることではないのは確かです。神への愛と人への愛を引き裂く意図は、そこにはないはず。むしろ、神への愛と人への愛を調和させ、完成させようとするものと考えてよいはず。親を愛し、妻を愛し、子を愛する愛が、真実の愛となり、永遠であるために、イエスから学ばなければならないということでしょう。

「わたしが愛したようにあなたたちが互いに愛しあうこと、これがわたしの掟である。友のためにいのちを与える以上の大きな愛はない」「わたしが愛したように」、この言葉は、兄弟姉妹愛、隣人愛を質的に大きく高めた言葉です。この言葉によって、兄弟姉妹愛の理想がイエスご自身になるのです。イエスの徹底した愛の姿が理想として置かれたのです。イエスの心の広さ、深さ、高さが新しい掟の基準とされたのではないかと思っております。



イエスへの愛情